



くすりと健康

一般社団法人
神戸市薬剤師会

漢方薬と西洋薬のちがい

漢方薬は中国の薬？

5〜6世紀頃に中国から導入された医学は、日本の風土・気候・体質にあわせて独自の発展を遂げ、17世紀頃（江戸時代）にはオランダ由来の西洋医学「蘭学」と区別され東洋医学「漢方」として体系化されました。中国4000年の歴史…を連想しがちな漢方ですが、西洋医学とも、中国の伝統医学「中医学」とも異なり、日本独自の医学といえます。

漢方治療は木を見て森も見ろ？

西洋医学ががん・感染症などの「悪い部分」を診るのに対し、漢方は「乱れた部分」を診ます。西洋医学は病名を重視しますが、漢方には「同病異治」「異病同治」という言葉があり、体質や病気の進行具合などで治療法が異なるのが特徴です。

漢方薬と生薬と有効成分と…

漢方薬はオーケストラでたとえる

と、楽器の奏者（生薬）が奏でるハーモニーを、指揮者（漢方薬）がまとめるイメージです。

たとえば、葛根湯は7味（葛根、麻黄、桂枝、芍薬、甘草、大棗、生姜）の生薬から構成され、さらに生姜には「シネオール」「ジングロール」「シヨウガオール」などの多くの有効成分が含まれています。

有効成分の分析を基本とする西洋医学の薬の概念とは違い、漢方薬は、多くの有効成分を含む生薬を集めて、互いに効果を高め合ったり補ったり調整しあって完成します。漢方薬の効果を簡単に説明できない所以ゆえでもありません。

漢方治療には五感を駆使？

数々の医療機器と検査を駆使する西洋医学と違い、漢方では「望聞問切」という4つの診察法（四診）で診断します。

「望診は目で見て診断します。舌診（舌の色や形状による診断）も含みます。専門の先生は、診察室に入っ

きた患者さんを視覚で見た瞬間に処方する漢方薬を絞り込みます。「問診は声の調子、咳の質、臭い等、聴覚と嗅覚で判断します。「問診」は自覚症状を聞き出し、「切診」は脈やお腹を触診します。四診を総合して体力の有無、病気の進行、病気の所在等を判断し漢方薬が選択されます。

起源から見る漢方薬の特徴

漢方薬は神農しゆんぬという方が草を舂つぶめて、薬効を調べたことが始まりとされています。神農は「神農本草経」(365種の薬物)を著したとされますが、たくさん毒草を試し、何度も中毒を起こし、最後には中毒死したといわれています。

西洋医学がエビデンス(薬が有効である証拠)を重ねる医学であるのに対し、漢方は膨大な経験を重ねた医学といえるかもしれません。

(長田区 野瀬病院薬剤科

原 克樹)